

在宅ケア NOW

2017.04



1

在宅ケア Now では、「在宅ケア現場の今」をレポートします。今、在宅ケアが変わり始めています！

今回は、「ケアロボコール」の在宅での活用事例をご紹介します。



運用事例①

一軒家に住む独居高齢者 Iさん

Iさんは要介護2で軽い認知症があります。夜間に動き回り、転倒していたことがあり、徘徊の恐れもあることから超音波・赤外線センサータイプ(Cタイプ)のケアロボコールを利用し始めました。Iさんが家の出入口に来るとセンサーが作動して近くに住む娘さんの携帯電話に画像付メールが届き、Iさんも家族も安心して生活できるようになりました。



下駄箱の下にセンサーを設置している
ので気づかれません。



運用事例②

マンションに住む独居高齢者 Uさん

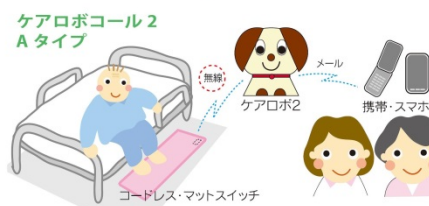
Uさんは要介護2でアルツハイマー認知症を発症しています。物忘れが多くなり、時々外出した後、自宅が分からなくなってしまうことがありました。マンションの隣の棟に住む家族が心配し、超音波・赤外線センサータイプ(Cタイプ)のケアロボコールを利用し始めました。Uさんが玄関口に来るとセンサーが作動して、娘さんの携帯電話にUさんが家を出ようとしている画像付メールが届き、いざとなればすぐに駆けつけることができるようになりました。



運用事例③

一軒家に住む同居高齢者 Hさん

片麻痺があるHさんは息子夫婦と同居していますが、息子夫婦は共働きの為、日中は独居になります。以前、昼間独りである時にベッドから転落してしまい、動けなくなって発見が5時間後になってしまったことがありました。そのことから、ベッド横にコールマットを敷いて、離床や転落時にケアロボから画像付メールが息子夫婦のスマホに届くようにしました(Aタイプ)。画像付なのでセンサーが作動した時のHさんの様子がわかるので仕事場から急いで帰るかどうかの判断が出来るようになりました。



運用事例④

多層階サ高住に住む高齢者 Yさん

Yさんは要介護2です。立ち上がりや歩行には何らかの支えが必要で、認知機能にもやや低下が見られるようになってきました。最近、夜間に部屋の外に出て近所の家のドアを叩く、インターフォンを押すなどの行動があったことから、超音波・赤外線センサータイプ(Cタイプ)のケアロボコールを利用し始めました。Yさんが出入口に来ると家族の携帯電話に画像付メールが届くので、家族はヘルパーさんに連絡し、スムーズに対応できるようになりました。



安心